授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2022 号

The influence of oral malodor on psychological stress

（口臭が精神的ストレスに及ぼす影響）

加藤　正幸（かとう　まさゆき）

博士（医学）

論文内容の要旨

近年、生活環境における清潔志向が高まるにつれ、体臭や口臭に対して「無臭であること」を求める人が増えてきていると言われている。我々は、口臭を主訴とする患者を対象に口臭が精神的なストレスに影響しているかについて検討した。

口臭を主訴として来院した 101 名、（男性 40 名、女性 61 名）を対象者とした。口臭の測定は、オーラルクロを用い口臭の主成分である揮発性硫黄化合物（VSC）を測定した。唾液中のストレス成分としてコルチゾール、クロモグラニン A を ELISA Kit により測定した。気分については POMS2 を用いて測定した。

口臭の原因物質である VSC の硫化水素、メチルメルカプタン、ジメチルサルファイドのいずれか１種類でも閾値を超えていたのは 60.3%であった。性別では、男性２５名(62.5%)、女性３５名（57.4%）であった。唾液中のストレス成分については、コルチゾール値に口臭の有無で変化はみられなかった。クロモグラニン A 値は口臭有り群で高値を示し、女性の口臭有り群では有意に高値を示した。POMS2 による気分の測定では、口臭測定により口臭がないにもかかわらず、「怒り-敵意」、「疲労~無気力」を感じていることが観察され、性別による解析では「抑うつ-落込み」を感じていることが観察された。

口臭は嗅いだものの主観的な判断によるもので、性質、強弱および嗅いだものの感覚の鋭敏さによって、さまざまに異なってくる。口臭は自分で感じることが難しいため本人のみが愁訴としているものがある。口臭の原因物質である VSC を測定した結果、口臭有りと判断された対象者はクロモグラニン A 値が高値を示した。また、アンケートの結果から、口臭測定による口臭の有無にかかわらず「怒り - 敵意」、「疲労 - 無気力」を感じていた。これらの結果から、口臭の原因物質である VSC の測定による口臭の有無にかかわらず、口臭を気にしている人は、精神的ストレスを感じていることが示唆された。また、口臭の治療においては、歯科的な治療のみならず心理的な面からの治療も重要であることが示唆された。